

総合評価結果報告書

施設の名称	静岡市支援センターみらい		
課名	精神保健福祉課		
指定管理者名	公益社団法人静岡県精神保健福祉会連合会		
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日		
評価委員会 開催年月日	令和4年6月3日(金)		
評価委員 ※()内は職名 等を記載してく ださい。	①委員長 松田 毅 (精神保健福祉課長) ②委員 望月 巖 (障害福祉企画課長) ③ " 大久保聡子 (こころの健康センター所長) ④ " 中村 倫也 (静岡県精神保健福祉士協会理事・ 静岡市地域移行支援部会長) ⑤ " 鷺巣 幸男 (元曲金三丁目自治会長)		
評価点 (各委員平均点)	73.8点	評価	C
評価結果詳細	別紙「総合評価結果総括表」のとおり		
総合評価結果を踏 まえての施設所管 課としての意見	<p>各委員の評価点に大きな差がなく、3点又は4点の評価に集中していることから、期待を超えるような取り組みは見られないものの、概ね適正に運営されていると評価いただいたものと考えている。</p> <p>なお、地域活動支援センター事業の延べ利用者数及び一般相談支援事業の延べ相談件数が成果指標となっているが、件数ではなく支援の質を問う質問や意見が多く寄せられたため、今後の成果指標の設定にあたり内容を検討したい。</p>		

総合評価結果総括表

施設の名称 [静岡市支援センターみらい] 課名 [精神保健福祉課]
 指定管理者名 [公益社団法人静岡県精神保健福祉会]

	A 評価 委員	B 評価 委員	C 評価 委員	D 評価 委員	E 評価 委員	平均 点
1 履行状況の確認 【配点50点】						
(1) 事業の円滑な実施						
(ア) 事業計画書等に示された事業が予定どおり、円滑に実施された。	8	8	8	8	8	8.0
(イ) 地域活動支援センター事業について、延べ利用者数の目標を達成した。	3	3	2	2	2	2.4
(ウ) 一般相談支援事業について、延べ相談件数の目標を達成した。	3	4	4	4	4	3.8
(エ) 運営委員会を設置、開催し、運営委員会の評価及び意見を施設の運営に反映させた。	4	3	4	3	4	3.6
(2) 適正な人員配置						
(ア) 適正な能力を持った職員が適正な人数配置された。	4	3	4	4	5	4.0
(イ) 労働時間や労働賃金、雇用形態など、労働関係法令を遵守し、適正な管理を行った。	4	3	4	4	5	4.0
(3) その他						
(ア) 施設の保守・管理・点検・清掃等が適正に実施された。	4	4	4	4	5	4.2
(イ) 利用者の個人情報などを適正に管理した。	4	3	3	4	4	3.6
(ウ) 災害時等の対応マニュアルを作成し、利用者を含めた定期的な防災訓練が行われた。	4	3	4	4	5	4.0
小 計	38	34	37	37	42	37.6
2 指定管理者の創意工夫 【配点15点】						
(ア) 指定管理者からの提案による指定管理者の技術・経験を活かした事業が実施された。	4	3	4	4	4	3.8
(イ) 事業の質の向上に向けた取り組みが積極的に行われた。	3	4	3	3	4	3.4
(ウ) 様々なプログラムを企画、実施し、より多くの利用者が参加できるよう努めた。	3	3	3	4	4	3.4
小 計	10	10	10	11	12	10.6

3 市民（利用者）のサービスの向上						【配点15点】
(ア) 利用者の満足度調査において高い評価を受けた。	3	3	4	2	2	2.8
(イ) 利用者の意見、要望及び苦情等を受け付け、速やかに対応する体制を整備した。	4	3	4	4	4	3.8
(ウ) 市民や利用者に向けた情報提供等が積極的に実施された。	3	3	3	4	4	3.4
小 計	10	9	11	10	10	10.0
4 施設固有の評価項目						【配点20点】
(ア) 利用者の状況を適切に把握し、利用者が地域において自立した日常生活または社会生活を営むことが出来るよう個々の目標に応じた適切な支援を行った。	4	4	4	4	5	4.2
(イ) 関係機関が実施するケース会議に参加するなど、関係機関と連携した支援を行った。	4	3	4	3	4	3.6
(ウ) ピアカウンセリングを実施し、精神障がい者の障害特性に寄り添ったきめ細かなサポートを行った。	4	4	4	4	4	4.0
(エ) 利用者と良好な関係を築き、利用者が安心して利用・相談できる環境づくりを行った。	4	4	4	3	4	3.8
小 計	16	15	16	14	17	15.6
合 計	74	68	74	72	81	73.8

※ 評価委員名は記載しない

※ 平均点は、小数点以下第2位を四捨五入する。

各評価委員の所見のまとめ（※各評価委員の所見をそのまま記載してください。）

【A評価委員】
<ul style="list-style-type: none">・意見として、（評価設定を考えていくべき（事務局だけでなく、施設として必要な主張を）。質的評価へ切り替えるべきではないか。）・地域との防災協議が必要・地域を巻き込んで展開していく事業を積極的に展開して頂きたい（期待したい）。成功例としてPRしたい。・苦情箱への対応について、事前に対応してしまうことをせず、誰でも入れられる環境が必要。
【B評価委員】
特になし
【C評価委員】
<ul style="list-style-type: none">・施設を知る人が少ないと思います。PRの方法を考えてください。
【D評価委員】
<ul style="list-style-type: none">・地域活動支援センター事業の利用者数について、目標と実績の乖離が著しい。目標設定時からの社会情勢の変化（コロナ禍等）、社会資源の拡充（就Bの増加）も考慮し、再考する時期ではないか。・依存症相談、法律相談など特色あるプログラムを企画するのは良いが、利用者実績が伸び悩んでいる。対策を考えていただきたい。・利用者によるプログラム満足度が他支援センターと比べ低目である。原因分析とともに、利用者の意見を聞き取る仕組みを検討していただきたい。・地域包括など高齢分野との連携強化を目標に掲げる等意欲は評価したい。今後も地域の拠点施設、また重層的支援体制の核となる施設として活躍してほしい。
【E評価委員】
<ul style="list-style-type: none">・全体的に適正な運営がなされていると思います。特にここ1～2年の活動や連携の様子は大変高く評価できると思います。

評価委員会としての意見
<p>地域活動支援センター事業の延べ利用者数や、相談支援事業の相談件数が成果指標となっているが、社会情勢の変化等もあり、件数だけをもって指定管理者の評価とはしがない。</p> <p>施設の質を評価する上では、利用者満足度調査や相談支援事業評価等が参考になるが、特段高くも低くもない結果であった。</p> <p>一方、利用者一人ひとりの「個人ファイル」を作成し、個々の状況に合わせた支援を行っていることや、利用者の声や事業評価、運営委員会の意見を踏まえて、施設のレイアウト変更やプログラムの増加及び見直し、職員の専門能力の向上などに取り組んでいること等は評価できる。</p> <p>近年は他の関係機関からの評価も高まっていることから、施設のPRに力を入れるとともに、引き続き利用者等の声に寄り添い、地域に根付いた施設運営に期待したい。</p>